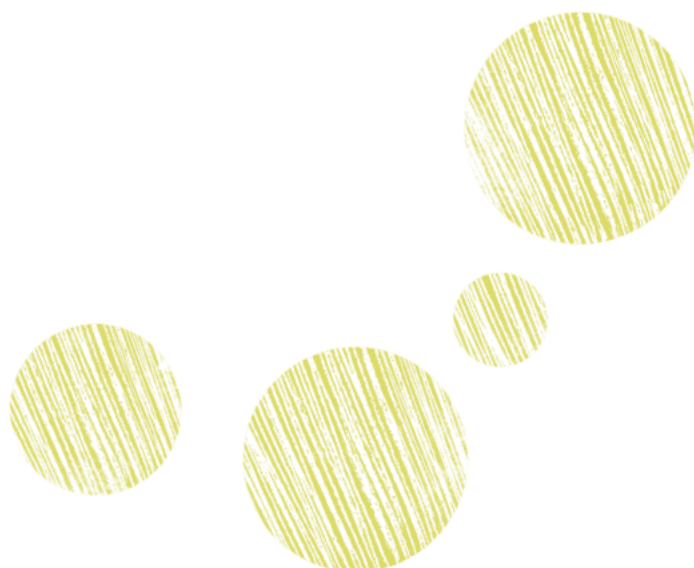




平成 24 年度

e-Knowledge コンソーシアム四国

事業報告書



はじめに

コンソーシアムの転換期を迎えて

e-Knowledge コンソーシアム四国 会長 有馬道久



本報告書は、平成24年度にe-Knowledge コンソーシアム四国で行われた主な事業とシンポジウム等の活動状況、ならびに、外部評価の結果をまとめたものです。

事業の具体的内容としては、e-Learning コンテンツとして四国学5科目を連携大学の教養教育科目として提供したほか、学際的専門科目の提供は前年度に比べて1科目増えて4科目となったことなどが挙げられます。また、四国学を通じて四国の魅力を全国に発信するという目的のために、ニュースレターを3回、メールマガジンを毎月発行しました。このように平成24年度は、コンテンツの開発と提供そして発信の実績を着実に積み上げたほか、平成25年度により充実した四国学や学際的専門科目を提供できるよう10回にわたって企画委員会を開催するなど準備に取り組みました。また、平成23年度の外部評価委員会でもいただいたご意見を踏まえ、事業目的の明確化と絞り込みを行いました。

四国学をはじめ通常の科目より手間のかかるe-Learning科目を提供してくださった講師の方々、円滑な科目履修のための支援や成績管理、あるいは会議運営のために各連携大学でご協力いただいた皆様、本コンソーシアムの運営にご尽力いただいた運営委員と企画委員の皆様、そして、貴重なご意見をいただいた外部評価委員の皆様がこの場をお借りして心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

しかし一方で、平成24年度も厳しい予算の中で、これらの事業を実施しなければならなかったという問題や、自校以外の科目履修者の伸び悩みが改善されなかったという問題も残されたままです。

そうした中、年度末近くになって国立大学改革強化推進補助金事業に「四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業」が採択されました。その中には、「四国産学官連携イノベーション共同推進機構プロジェクト」、「四国地区国立大学連合アドミッションセンターの設置とAO入試の共同実施プロジェクト」とともに、「四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施プロジェクト」も含まれていました。当然、最後のプロジェクトは、e-Knowledge コンソーシアム四国のe-Learning基盤を活用することになりますので、本コンソーシアムとしても大きな転換期を迎えたと受け止め、早急に特色と違いを見出す必要があると考えています。

真に四国の地域づくりを担う人材育成に貢献できるように取り組んでまいりますので、引き続き本コンソーシアムの活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

